

16. キク白さび病菌のストロビルリン剤感受性検定

1. 背景とねらい

県内のキク産地では、盆、彼岸を狙っての計画的安定出荷による有利販売を実践しています。しかし、近年、露地ギクで白さび病が多発し、生産阻害要因となっています。そこで、防除対策へと結びつけるため、キク白さび病菌のストロビルリン剤に対する感受性レベルを明らかにします。

2. 成果の内容

- 1) 県内の露地ギク圃場 3 地点から計 4 菌株を採集し、小生子発芽に対する培地検定を行った結果、すべての菌株がアゾキシストロビンに対する EC_{50} 値は 0.1ppm 以下であり、感受性菌と推察されます(図 1, 表 1)。
- 2) 採取したキク白さび病菌のミトコンドリア内チトクローム b 遺伝子を解析した結果、すべてストロビルリン剤耐性に関わる変異は認められません(図 2)。
- 3) 以上から、県内露地ギクで採集した 4 菌株はすべてストロビルリン剤感受性菌と推察されます。

3. 利用上の留意点

- 1) キク株を用いた生物検定は未実施です。
- 2) ストロビルリン剤の散布は親株床、または本圃での発生初期の散布に留めます。

(生産環境研究部)

4. 具体的データ

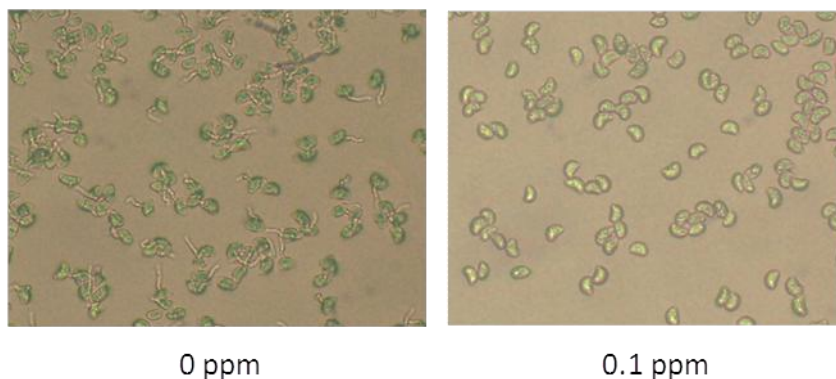


図 1 キク白さび病菌小生子発芽状況
(数値はアゾキシストロビン濃度)

表 1 広島県露地ギクの白さび病菌小生子発芽
に対するアゾキシストロビンの抑制効果

菌株名	EC ₅₀ 値
T1	0.1ppm 以下
T2	0.2ppm 以下
T3	0.3ppm 以下
T4	0.4ppm 以下

EC₅₀ 値は小生子発芽を 50%抑制する濃度

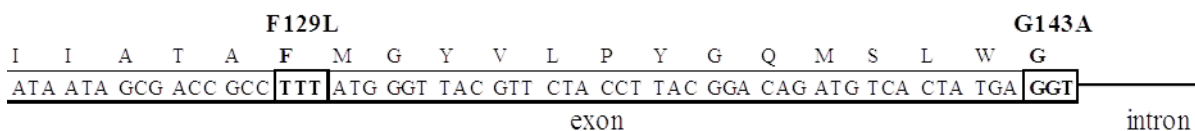


図 2 キク白さび病菌広島株チトクローム b 遺伝子 Qo サイトとアミノ酸配列
(太字は感受性変異部位)